

# 『すまいる通信』配信のお知らせ

毎月20日に  
配信します



『すまいる通信』は、あらかじめご登録いただいた方にパソコンや携帯電話などのメールを利用して、支援に役立つ情報やイベントをお知らせするサービスです。ぜひご利用ください。

(情報利用料は無料。ただし通信料は自己負担となります)

### 新規登録、登録内容の変更・登録の解除

下記のアドレスまたは右の二次元コードより案内に従い、空メールを送信してください。

▶ <https://mail.cous.jp/setagaya-mail/>



〈配信元・問合せ先〉

世田谷区障害福祉部障害保健福祉課 TEL 03-5432-2227 FAX 03-5432-3021

## 世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

### 開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)  
午前9時～午後6時

### 利用方法

世田谷区在住の方を対象としています。  
何かお困りのことがあれば、まず、世田谷区発達障害  
相談・療育センター「げんき」にお電話ください。

TEL 03-5727-2236 (相談専用)

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18  
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3階  
TEL 03-5727-2235 (代表)  
FAX 03-5727-2238  
URL <https://www.ryo-iku.jp/>

### 業務受託：社会福祉法人 トポスの会

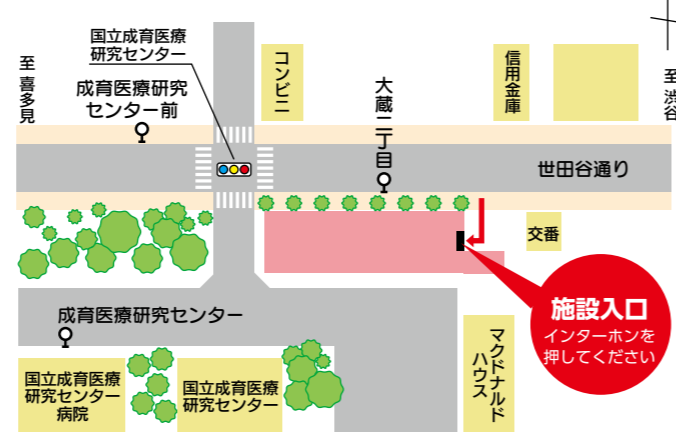
〒123-0844 足立区興野2-18-12  
TEL 03-5837-4830 FAX 03-3890-8121

### 編集後記

毎年、発達障害に関する理解啓発を目的に講演会を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために会場で開催せず、収録した動画を後日配信することにしました。今回は、思春期から継続して積み重ねたい支援をテーマに、発達障害のある方やそのご家族が、就労に向けてアセスメントを用いて日々の生活を振り返り、具体的な支援を導き出す方法等についてお話していただきました。

講師の縄岡先生には、大学の研究室からオンラインで講演していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

### アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

### 東急バス・小田急バス

〔渋24〕 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅

### 東急バス

〔等12〕 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所

〔用06〕 成城学園前駅 ↔ 用賀駅

〔玉31〕 二子玉川駅 ↔ 成城学園前駅

### 小田急バス

〔渋26〕 調布駅南口 ↔ 渋谷駅

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。成育医療研究センター行き、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。

※専用駐車場はありません。

# Gpress

## せたがや

第44号

2022年1月発行

「ジープレスせたがや」  
<https://www.ryo-iku.jp/>  
GpressのGは愛称「げんき」のGです。

### 令和3年度 発達障害理解のための講演会

# 発達障害のある人が 働くときに大切なこと

～思春期から積みかさねる支援～

講師 大妻女子大学人間関係学部  
人間福祉学科

助教 **縄岡 好晴 氏**  
なわ おか こう せい



青年期(10代・20代・30代)の課題の1つである  
**就労の視点**から、思春期から積み重ねていくこと、  
保護者や支援者に伝えたいこと等をお話していただきました。

本講演会は、国の緊急事態宣言の発出に伴い、会場での開催を中止いたしました。  
講演会の内容を別途収録し、世田谷区オフィシャルチャンネル (YouTube) にて配信しています。



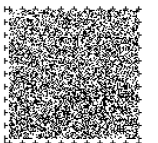
中面にて講演内容の一部をご紹介します。

まずは  
お電話  
ください

「げんき」では、発達障害に関する全般的な  
ご相談をお受けしています。

03-5727-2236

(「げんき」相談専用番号)




# 発達障害のある人が働くときに大切なこと

## ～思春期からつみかさねる支援～

講師  
プロフィール

なわおか こうせい 氏 (大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科 助教)

子どもから成人期までの自閉症を中心とする発達障害のある方々への直接支援に、15年間従事。その後、千葉県発達障害支援センター係長を経て、令和2年度より現職。




### ライフステージによって変わる特性

発達障害のある方は、ライフステージによって特性が変化することがあります。学齢期にSLD(限局性学習症)やADHD(注意欠如・多動症)と診断された方が、成人期に再度診断を受け、ASD(自閉スペクトラム症)の診断に変わることがあります。これは成人期になるにつれて、ASDの特性であるコミュニケーションや対人関係の問題が表面化し、課題になりやすいためです。


幼児期～思春期によくある課題

➔

成人期に職場でみられる課題

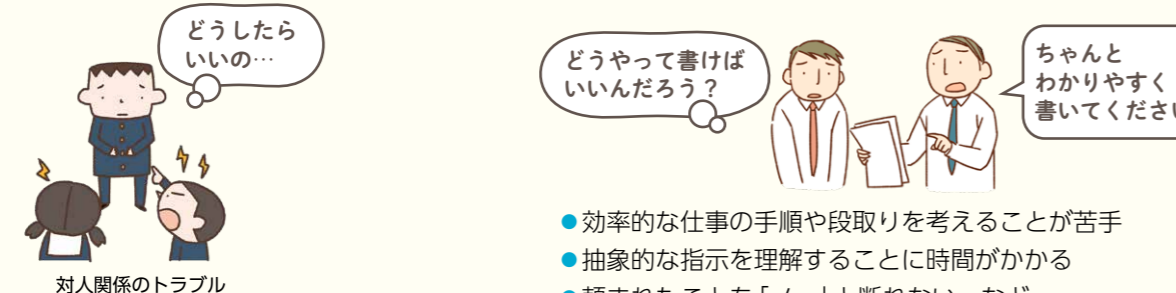


読み書きが苦手  
じっとしていられない



でも、私の考えだと……!

- 状況や相手に合わせて臨機応変に対応することが難しい
- 自分の意見を無理に通そうとしてしまう など



どうしたらいいの…  
どうやって書けばいいんだろう?  
ちゃんとわかりやすく書いてください

- 効率的な仕事の手順や段取りを考えることが苦手
- 抽象的な指示を理解することに時間がかかる
- 頼まれたことを「ノー」と断れない など

### 職業準備性(※)を考える～環境及び生活の適応性の視点から～

※職業準備性とは、職業生活を始めるにあたり、必要なライフスキル・ソフトスキルが備わっている状態を意味します。

発達障害のある方は環境との相互作用によって仕事の作業効率が大きく変わります。また、働くときには、仕事の実務能力以外のソフトスキル(コミュニケーション、対人関係における能力)・ライフスキル(生活能力)が必要になります。そのため、学齢期や思春期から、これらのスキルを分析し、本人の特性に合わせた環境設定を検討することが大切です。支援者と当事者が就労に向けて課題を共有し、取り組むことで、職業準備性が高まると考えています。ただ、できないところは他者に助けを求めたり、相談したりするスキルも大切です。

#### 働くときに求められるソフトスキル・ライフスキルの例


**ソフトスキル**

職務遂行上に求められる


- 「修正の受け入れ」
- 「感情の安定」
- 「ルーティンの変更」
- 「作業場の整理整頓」

**ライフスキル**


- 「身だしなみ」
- 「衛生面」
- 「食事のマナー」
- 「トイレの使用」




#### 総合的職場適応能力




仕事の習慣/態度



対人関係



認知能力



仕事の遂行能力

※今回の講演では、職業準備性の課題を整理する方法の一つとして、2021年に翻訳された新しいアセスメント方法である『BWAP2』を紹介しました。『BWAP2』では、上図の4つの就労スキルを測定して、実社会で役に立つ能力を「総合的職場適応能力」として評価します。就労支援への活用や学齢期からの支援計画の検討などに役立てられています。

### 保護者／支援者に伝えたいこと

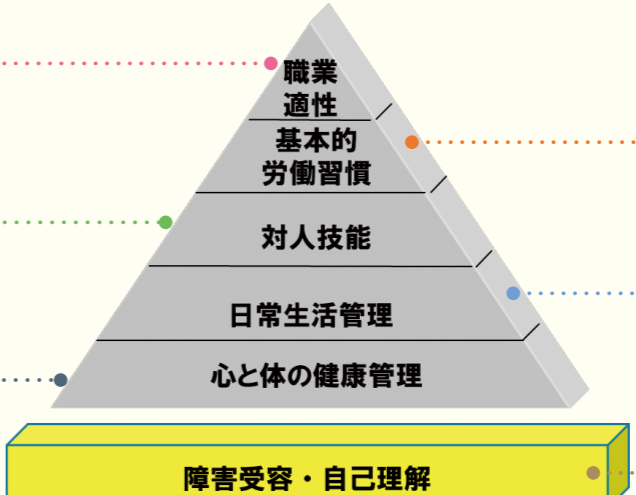
就労支援では、仕事に関する実務能力(職業適性)を向上させることに目が向きがちですが、職業準備性のピラミッド(下図)のように、職業適性を獲得するためには、**心と体の健康管理・日常生活管理・対人技能・基本的労働習慣を積み重ねていくことが重要**です。

**保護者へ**

職業準備性のピラミッドをもとに、現在のお子さんの課題を確認しましょう。また、思春期から働くことへのイメージ作りをしていきましょう。

**支援者へ**

本人に、自身の特性や課題について、わかりやすく伝える工夫をしましょう。また、職業適性を獲得するための具体的な支援プロセスを作ることができているか、その方針を本人と共有できているか、意識することが重要です。



職業準備性のピラミッド  
※相澤(2007)を一部変更

できること、できないこと  
適した仕事

感情のコントロール  
注意されたときの謝罪  
苦手な人へのあいさつ

食事・栄養管理  
体調管理  
服薬管理

職業適性  
基本的労働習慣

対人技能

日常生活管理

心と体の健康管理

障害受容・自己理解

報告・連絡・相談  
身だしなみ  
時間を守る

基本的な生活リズム  
金銭管理

強み、弱み、必要な配慮  
状況把握、現実認識  
自分に合った働き方  
必要なサポート

### 本人の希望や興味関心、理想の先にある「目指す進路」のイメージ作りのポイント

**働くイメージを作る**

職場実習やアルバイト、家事手伝いを通して、仕事に関する情報を多く伝える。自分の得意・不得意を理解する経験を積む。

**“働くこと”について一緒に考える**

働く目的(「なぜ働きたいのか」「仕事をしてどのような生活をしたいのか)」について、本人の意向を尊重し、興味関心をもとに現実的な就労イメージを共有する。

**障害理解・障害受容をすすめる**

本人や周りの人が特性や必要な支援を理解できるように、課題を整理する。そして、本人が自分に必要な配慮や支援、支援機関を知る。

### さいごに

就労の定着支援につなげるためには、**思春期からライフスキルを積み重ねていくことが大切です。**

保護者や支援者は、お子さんが働いているイメージを持ち、どのようなスキルを何歳までに身に付けるべきか、課題と達成する期限について整理し、本人と共有しましょう。

